

平成 2 年度

幼児教育における教材データベースの構築

～データベースの充実とその普及～

川崎市総合教育センター 幼児教育研究会議

幼児教育における教材データベースの構築

—データベースの充実とその普及—

幼児教育研究会議

小柳津百合子¹ 山崎幸子² 野口栄子³ 木村寿子⁴

要 約

幼児教育研究会議では、昭和62年度から幼児教育教材データベースの開発が試みられている。一次研究（昭和62・63年度）においては、視聴覚Ⅱとの共同研究を行いデータベース構築の基盤が整備され、音楽やリズムの表現活動を中心にしての情報の収集、教材開発が行なわれた。二次研究（平成1・2年度）においては、一次研究で課題として残された ①データベース完成のための入力継続 ②各幼稚園の開発教材の収集 ③システムの活用推進及び見直し・改善 の3点を検討し研究の柱を 1.収集内容の充実 2.活用とその普及 の2点とした。収集内容については利用者の多様なニーズに応えられるように考慮し、(1)自作教材資料 (2)視聴覚教材資料 (3)市立幼稚園としての保存資料 (4)参考資料 (5)自作ビデオ教材資料 (6)文献資料 の6つに分類し情報の収集、開発を行い、現在データベースには約2,300件の情報が入力されている。また、このデータベースが幅広く活用されるためには、どのように利用したらよいか具体的なシステムを構想した。それを普及していくことで、利用者の関心が深められると考えられる。今後、データベースを恒常的に発展させていくためにはデータベースにかかわる組織を市立幼稚園の中に確立させ、その中で精選した情報を収集、開発し更に充実したデータベースにしていくこと、そしてそれが幅広く利用されていくこと等が望まれる。

キーワード：幼児教育、開発研究、データベース、教育情報、ビデオ教材、自作教材

目 次

はじめに

I 主題設定の理由……………	240	④ 参考資料	
II 研究のねらい……………	240	⑤ 自作教材資料	
III 研究の内容……………	241	⑥ 自作ビデオ教材資料	
1. データベースの収集内容の充実…	241	(3) 情報収集についての方策	
(1) 幼児教育教材データベースの収集内容		① 情報収集の方法	
(2) 幼児教育教材データベースの収集資料		② 今後の構想	
教材の分類と特色		2. データベースの活用と普及……………	246
① 文献資料		(1) 利用するための具体的システムの構想	
② 視聴覚教材資料		(2) 活用・普及にむけての具体的方策	
③ 川崎市立幼稚園としての保存資料		IV まとめと今後の課題……………	248

¹南野川小学校附属幼稚園（主任研修員）

²向小学校附属幼稚園（研修員）

³川中島小学校附属幼稚園（研修員）

⁴川崎市総合教育センター研修指導主事

はじめに

社会の情報化、生活の多様化の中にあって、一人一人の幼児の個性の芽生えを促し、豊かな感性を育む幼児教育を行うために、多くのより良い教材について情報が求められている。各保育の場において、個に応じるすぐれた教材等の開発が行われているが、現状は各幼稚園内の利用にとどまっている。しかし、保育活動をより充実していくためには、各幼稚園や保育者が開発した教材の共有化と交流がのぞまれる。そこで、情報や教材を収集、整理、分類し、蓄積することにより、いつでもすぐに必要な情報を提供できるシステムの開発が、昭和62年から総合教育センター幼児教育研究会議によって試みられている。このシステムは、幼児教育にかかわる情報や教材を、幅広く収集開発してデータベースに入力することにより、その課題に対応しようとするものである。この幼児教育教材データベースを構築することによって、下記のことが達成すると考えられる。

- ① 幼児教育に関する情報や有効な教材の収集と蓄積ができる。
- ② 幼稚園、その他公共施設の持つ幼児教育の情報や教材の共有化ができる。
- ③ 市立幼稚園としての保存資料を入力することにより記録と保存が可能になる。
- ④ 必要に応じて、情報や教材の検索ができる。
- ⑤ 保育指導に関する教材や資料についての情報提供ができる。

将来的には、各市民館とのネットワークが整うことにより、単に市立幼稚園の利用にとどまらず市民館における幼児教育学級や一般市民の幼児教育に関するニーズに応える等の活用も期待できるものであると考えられる。

I 主題設定の理由

このデータベースの構築については、一次研究において視聴覚Ⅱとの共同研究で着手され、幼児教育研究会議においては、データベース構築にかかわる基礎研究、また音楽の領域を中心に、情報や教材の収集を図った。また、視聴覚Ⅱの研究会議においては、幼児の表現活動に関するビデオ教材の開発が進められ、一次研究では1,300件の情報が入力された。しかし、今後の多様なニーズに応えていくためには、まだ情報量は不十分である。今後、更に精選した情報を継続して入力し、充実を図らなければならない。また、各幼稚園現場とのオンライン化が実現されていない中で利用を促していくためには、まず利用者のデータベースへの認識を深めるとともに、データベース利用のためのシステムを構想することが必要になってくる。また、幼児教育教材データベースの場合、市立幼稚園所有のものをデータベース登録資料としているため、保管場所も市立幼稚園各園となっているものも多い。情報の提供依頼があった場合、所有園では登録資料をどのように提供したらよいのか等、データベース運用のために整備しなければならないことも多くある。そこでデータベースが幅広く活用されるために、様々な面での整備を図り、円滑に利用できるようにしていかなければならないと考える。

II 研究のねらい

一次研究の中で課題として残された、①データベース完成のための入力の継続 ②各幼稚園の開発教材の収集 ③システムの活用の推進及び見直し の3点を検討し、幼児教育教材データベースを

更に充実させ、幅広く活用させていくために二次研究のねらいを、1.データベース収集内容の充実
2.その活用と普及 の2点におき研究を進めることにした。

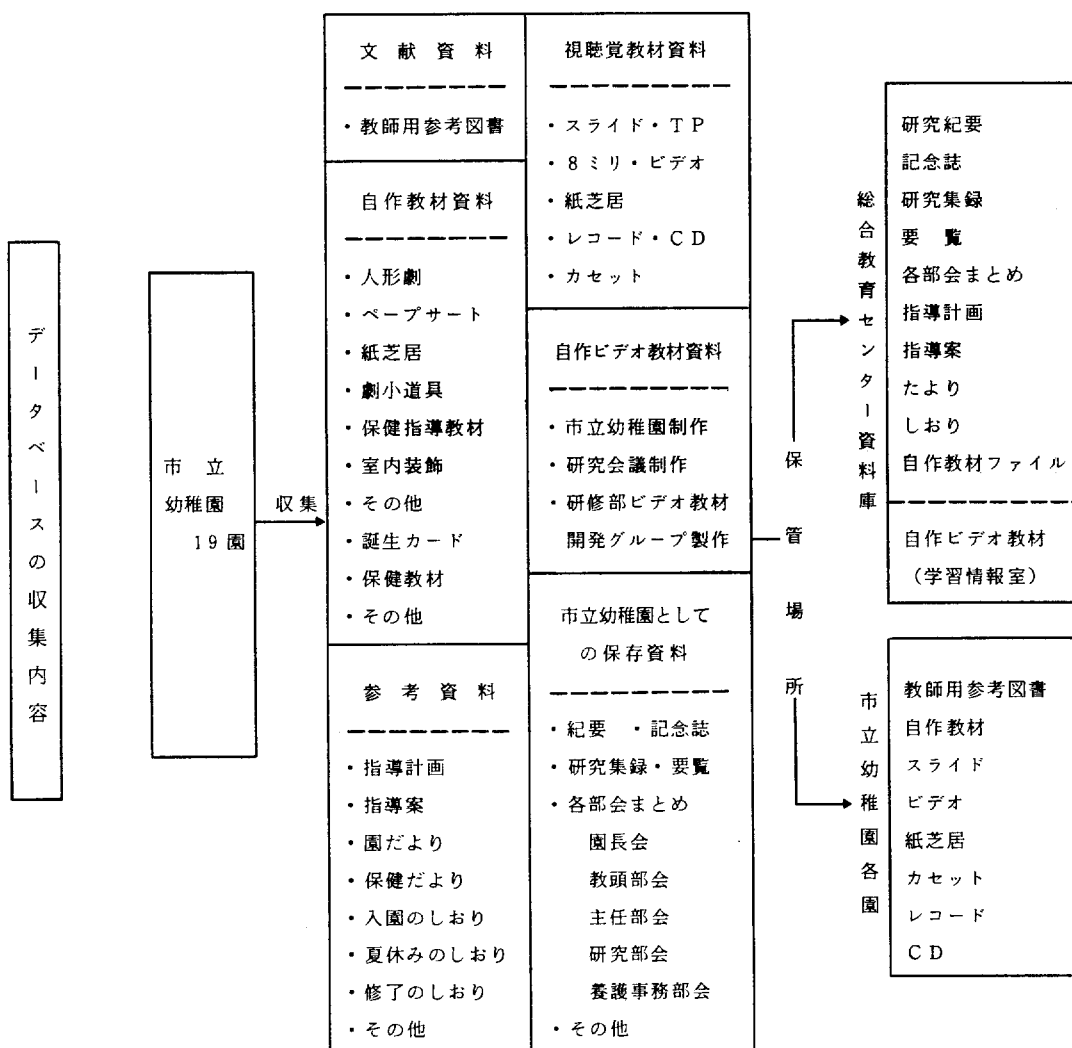
Ⅲ 研究の内容

1. データベースの収集内容の充実

(1) 幼児教育教材データベースの収集内容

データベースに入力されている情報は現在のところ市立幼稚園19園から収集を図っている。その中には市立幼稚園所有のものも多く、従って保管場所も市立幼稚園現場となっている。それ以外のものについては、総合教育センター資料庫に、また、自作ビデオ教材については、総合教育センター学習情報室に保管されている。

データベースの収集資料は、下記の表のように「文献資料」「参考資料」「市立幼稚園としての保存資料」「自作教材資料」「自作ビデオ教材資料」「視聴覚教材資料」に分類されている。



(2) 幼児教育教材データベースの収集内容の分類と特色

データベースが多くの利用者のニーズに応じていくためには、価値ある充実した内容が要求される。そこで、収集内容を下記のように分類し特色を明らかにし収集を図った。

- ① 文献資料 ② 視聴覚教材資料 ③ 川崎市立幼稚園としての保存資料
④ 参考資料 ⑤ 自作教材資料 ⑥ 自作ビデオ教材資料

① **文献資料** ○教師用参考図書（1143） （ ）内入力件数

教師用参考図書は、教師が保育の指導上参考になると考えられるものを、健康・社会・自然言語・音楽リズム・絵画製作の領域に分類し収集した。図書教材の内容が、目次をイメージとしてディスプレイ画面から捉えられるようにしたものも多い。

② **視聴覚教材資料** ○スライド（316） ○8ミリ（1） ○TP（68）
○ビデオ（24） ○紙芝居（50） ○レコード（210）
○カセット（25） ○CD（4）

視聴覚教材は、保育指導にすぐに使える教材として、大変有効である。CDについては、現在のところ数は少ないが、レコードからCDの時代を迎えている現在、今後各園で購入され、これからの有力な収集対象になると推測される。

③ **川崎市立幼稚園としての保存資料** ○記念誌（18） ○研究集録（11） ○要覧（10）
○研究紀要（24） ○各部会まとめ（23）（・教頭部会／1・主任部会／7・研修部会／12・養護事務部会／3）
○その他資料（20）

川崎市立幼稚園としての資料を整理保管しておくことは、今までの市立幼稚園の歩みを知る上で貴重なことである。市立幼稚園創設時からの上記の資料を整理し、資料庫に保管した。

④ **参考資料** ○保育指導計画（23） ○年間指導計画（7） ○指導案形態（1）
○安全指導計画（2） ○年間行事指導計画（1） ○たより（1）
○園だより（12） ○クラスだより（1） ○保健だより（14）
○入園のしおり（1） ○夏休みのしおり（1） ○修了のしおり（1）

保育計画を立てる上で、他園の指導計画等は大変参考になる。また、各園で発行している園だより、保健だより、クラスだより等についても、同じことが言える。そこで、各種別ごとにまとめ、表紙を付け閲覧できるようにした。園だより、保健だよりについては月毎にまとめてある。年間行事指導計画、しおり類は、一つの括りにして綴じてある。指導計画については、イメージとしてディスプレイ画面から捉えられるようになっている。これらの教材については常に新しいものに変えていくことが必要になってくると考えられる。

⑤ **自作教材資料** ○人形劇（9） ○ペープサート（9） ○紙芝居（9）
○劇小道具（8） ○保健指導教材（5） ○その他（13）
○誕生カード ○室内装飾 ○誕生表 ○保健教材

手作りの教材は、既存のものにない豊かな魅力がある。子どもたちにとって、それらは感性を育む良い教材になると考えられる。各幼稚園には、それぞれ創意を生かした自作教材が開発されている。また、個人でも自作教材を工夫し、保育活動に生かしている教師もいる。

このような教材を共有の財産として幅広く考え、データベースに入力することは、教材を有効に活用するといった視点からも、また自分自身が創作していく時の参考にするといった視点からも意義深いことである。この自作教材資料については、幼児教育教材データベースの大きな特色になると考えられる。

これらの自作教材は、教材を写真に撮り、それぞれの種別毎にファイルブックにして、総合教育センター資料庫に保管し、閲覧できるようにした。

人形劇・ペープサート・紙芝居・保健指導教材・劇小道具・その他については右記のような自作教材一覧表を作り、一覧表を通しての利用もできるようにした。

また、誕生カードは月毎に分け12冊のファイルに、室内装飾は四季と四季にかかわらないものに分け5冊のファイルに、誕生表、保健教材については、それぞれ1冊ずつのファイルにしてある。

(自作ビデオ教材一覧表)

種類	No	題名	内容	所有者・所有場所
人形劇	1	おおきなかぶ	ロシア民話・絵本から	古市場小付幼
	2	泣いた赤鬼	日本民話から	生田小付幼
	3	金のおの銀のおの	グリム童話から	白幡台小付幼
ペープサート	1	日天さん月天さん	永柴孝堂作	川中島小付幼
	2	ももちゃんが生まれた日	松谷みよ子の童話から	南野川小付幼
	3	ねずみくんのチョコキ	上野紀子作・絵本から	生田小付幼
紙芝居	1	ぐりとぐら	絵本から(園児制作)	高津小付幼
	2	どろぼう学校	かこさとし作・絵本から	南野川小付幼
	3	てぶくろ	ロシア民話・絵本から	生田小付幼
保健指導教材	1	こむしば村のものがたり	創作紙芝居	生田小付幼
	2	けいたくんの目	創作紙芝居	増井真由美
	3	夏休みの注意	ペープサートとビデオ	南野川小付幼
劇小道具	1	小人とくつや	グリム童話から	南野川小付幼
	2	ねずみの嫁入り	日本昔話から	高津小付幼
その他 衣装・OHP	1	たなばた	OHP・創作	白幡台小付幼
	2	祭りのはっぴ	20着	向小付幼

⑥ 自作ビデオ教材資料

1. これまでに開発された自作ビデオ教材

自作ビデオ教材については、一次研究において視聴覚Ⅱの研究会議との共同により、積極的な開発が進められた。幼児用と指導者研修用に分け、それぞれの視点を次のように明らかにし、表のように146本が制作されている。

<幼児用ビデオ教材>

①知る(わからせる) ②感じる(つつみこむ) ③広がる(ふくらませる)教材

<指導者研修用ビデオ教材>

(今までに開発された自作ビデオ教材)

A / 一教師用教材 (96本)			B / 一幼児用教材 (50本)					
手遊び・指遊びシリーズ1~5	37	誕生会シリーズ1~3	7	食べ物シリーズ	6	自然シリーズ	5	
楽器の使い方(打楽器)	12	集会シリーズ1~2	4	動物シリーズ	39			
遠足シリーズ	3	運動会シリーズ1	2	カエル	カニ	ザリガニ	ライオン	
鑑賞会シリーズ	3	生活シリーズ1	2	シロクマ	ヒグマ	マレーグマ	ブタ	
行事シリーズ	2	屋外遊び1~2	11	キリン	ウサギ	サル	イヌ	アヒル
童歌遊び	5	その他	8	ペンギン	ゾウ	ラッコ	ウシ	サイ
				アザラシ	ツバメ	熱帯魚	その他	

①子どもに教えるために教師がその指導方法を研修するもの ②保育の参考になるもの

2. 自作ビデオ教材の現在の開発

二次研究においては、より幅の広い分野にわたってのビデオ教材の開発を進めることが課題である。そこで、近年多くの幼稚園ではビデオカメラが普及し、日常の保育活動や行事等を収録していること、また、研修部のグループ研修の中に、ビデオ教材開発グループがあることに着目し両者との連携を持ち、提供を依頼することにした。このことは、データベースの利用者が入力資料の提供者となり、幼稚園現場と一体になったデータベースの構築が可能となると同時に、幼児教育教材データベースへの理解も深まるというプラスの循環を生み出すことになると思う。

【市立幼稚園から収集していくもの】

* 指導者研修用・保育の参考となるものという視点から

- ・園行事 (修了式・発表会・誕生会・運動会・遠足・式典等)
- ・各園の特色ある保育活動 (親子のふれあい活動・お年寄りとの交流会等)
- ・保健指導 (歯みがき指導・夏休みの健康指導等)
- ・文化活動 (人形劇・音楽会鑑賞等)
- ・その他 (講演会・遠足候補地・幼小連携活動等)

【研究会議において開発されたもの】

* 指導者研修用・教師が指導方法を研修するという視点から

- ・体操 (時計の体操・ディズニー体操・海賊体操・花火の体操等)
- ・ダンス (踊るポンポコリン・チェッチェコリ・ハメハメ大王等)
- ・ゲーム (十字架ルーレットゲーム・カード集めジャンケン・レイとりジャンケン等)

【研修部会ビデオ教材開発グループにおいて開発されたもの】

- ・はさみの使い方
- ・誕生カードの製作

(自作ビデオ教材一覧表)

自作ビデオ教材についても、自作教材と同様により多く利用してもらうため、右記のような一覧表を作り、閲覧を通しての利用も促していくようにした。(下記利用例)

1. ウサギ～1

ウサギの生態が良く捉えられているので、実体を観察したりまた、子どもの表現遊び等に使える。

46. 指あそびシリーズ

教師が新しい指あそびを覚えたい時に使える。

147. 保健指導

保健指導をどのように行ったら効果的か指導方法を検討する時に使える。

148. ダンスシリーズ

表題	内容の要約
1 ウサギ～1 (2分) YF 632250	ウサギが動く様子を、いろいろな角度からとらえている。エサを食べるところ、周囲に注意をはらうところ、跳ぶところは、スローモーションをいれてある。利用者の使いたい音楽やナレーションを組み合わせる事もできる。
46 一匹の野ねずみ～手遊び指あそびシリーズ (2分) YF 632371	手あそび・指あそびシリーズの「一匹の野ねずみ」は、手本となる教師が、最初は一匹の野ねずみ、次に二匹の野ねずみ、と数を増し五匹の野ねずみまであらわしたもので、教師研修用の作品である。子どもに指導するためには、テレビで行っている動作とは反対に覚えると良い。
147 夏休みの注意～保健指導 (10分) YF 632386	夏休みの注意を保健指導の立場から指導しているもの。冷たいものを食べ過ぎない・ジュースなどさとうの多いものを飲み過ぎない・外へ出る時には、帽子をかぶる等、集会で指導している様子を撮ったもの。 教師研修用
148 踊るポンポコリン～ダンスシリーズ YF 632387 (3分)	教師が踊るポンポコリンのダンスを踊っているところを撮っている。ビデオを見てダンスを覚えることができる。教師研修用

教師が新しいダンスを研修したい時に使える。

(3) データベース情報収集についての方策

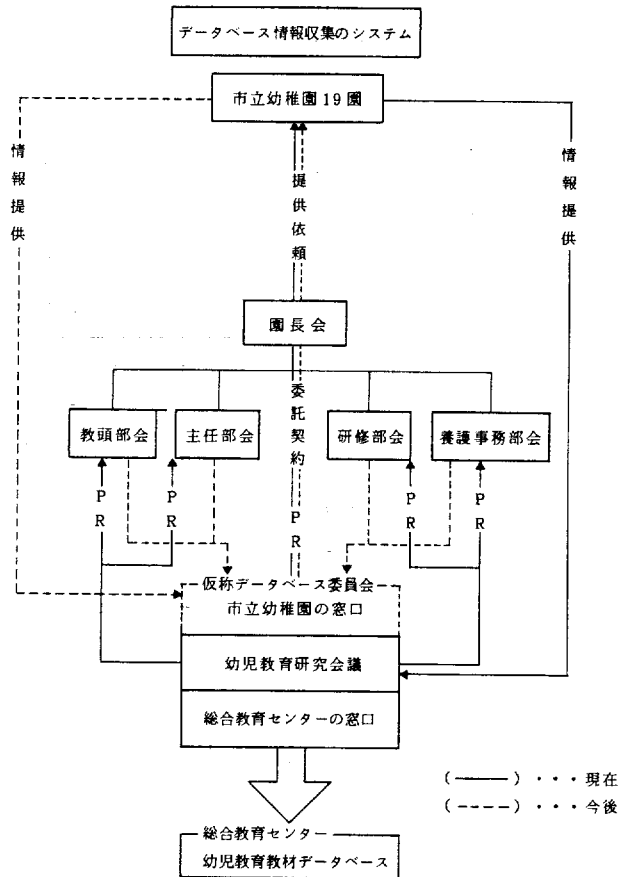
1. 情報の収集の方法

価値ある情報を収集していくには、教師一人一人が、データベースに対する認識を持つことが大切である。情報の収集等において市立幼稚園に協力してもらう意味で、園長会と委託事業契約を結んでいる。具体的には、データベースをより理解してもらうために、各部会（園長会、教頭部会、主任部会、研修部会、養護事務部会）や各市立幼稚園に赴き、データベースの説明をする中で、情報の提供を依頼した。

2. 今後の構想

データベースの充実発展には、継続的に精選された豊富な情報を収集し、蓄積していくことが条件である。現在は、幼児教育研究会議がこのデータベースにかかわっているが、今後幼児教育研究会議を切り離したところでこのデータベースを恒常的に発展させていく方法を考えていかなければならない。

そこで、データベースに関する市立幼稚園側をとりまとめる組織（仮称データベース委員会）を構想し、市立幼稚園の窓口とした。また、今後予想される市立幼稚園以外の利用者からの情報の提供、収集等については、総合教育センターの窓口委ねなければならないと考える。市立幼稚園の窓口、総合教育センターの窓口、両者の役割を明らかにし、互いに連携を持ちながら、データベースを恒常的に発展させていかなければならない。



【市立幼稚園の窓口】……………・情報、資料の提供依頼、収集、整理 ・整理用紙の記入 ・データベースのPR ・教材開発 ・教材、資料のクリーニング

*この組織は、各部会（園長会・教頭部会・主任部会・研修部会・養護事務部会）から1名ずつで構成する。各部会からメンバーを選出するこの方法は、データベースがより各部会と密接になると考えられ、データベース普及という面からも有効であると思われる。しかし、現実的には市立幼稚園全体にかかわることになるのですぐにこの組織を作ることは難しい。そこで研修部の中のグループの1つが、データベースにかかわっていく中で、新しい組織作りの準備をしていくことにした。

【センターの窓口】……………・情報、資料の入力受付 ・登録資料の保存場所の変更手続き提供サービス ・市立幼稚園以外からの情報収集

2. データベースの活用と普及

(1) 利用するにあたっての具体的なシステムの構想

幼児教育教材データベースの場合、市立幼稚園から情報を収集しているため、データベース登録資料の保管場所の多くが市立幼稚園現場という状況にある。そこで問題となるのは、利用者が検索をして取り出した情報の保管場所が市立幼稚園だった場合、データベース登録資料をどのような手順で提供依頼したらよいか、データベース登録資料保管園ではどのように利用者に対応したらよいか等、貸出・提供のシステムを明確にしなければならない。

また、教育現場と総合教育センターがオンラインしていない現状の中では、利用者は総合教育センターに来て検索をし、情報を取り出すというのがデータベース利用の前提である。しかし、データベース利用のためにセンターまで来るといことは難しい現状にある。そこで、少しでも多くの人にデータベースを利用してもらうために、オンラインするまでの間に限って検索を代行するというシステムも構想した。

【利用者は】

- ① 検索をして、情報を取り出し、教材・資料所有園、所有者を確認する。
- ② データベース登録教材・資料所有園、所有者に連絡をする。
- ③ 提供を受けられる場合は、依頼台帳に記入する。
- ④ データベース資料所有園等と相談の上、集配または、各部会等で提供を受ける。

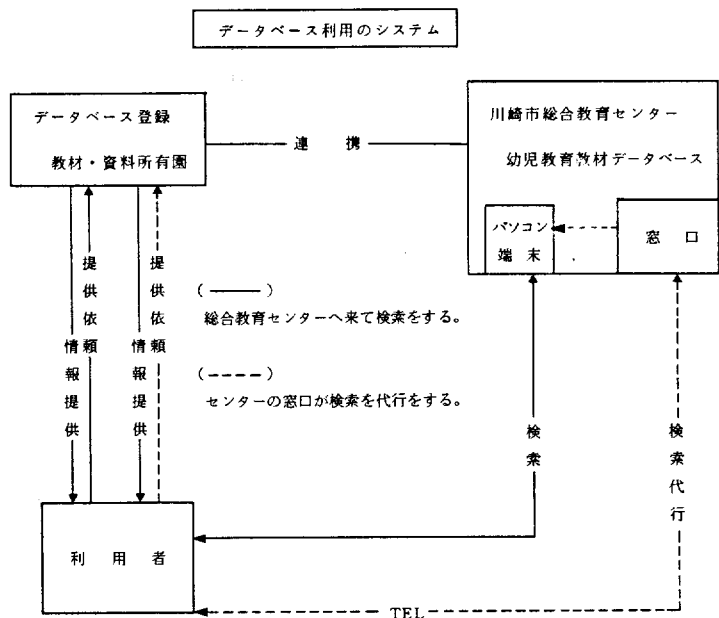
- ⑤ 借りられる期間は一応2週間とし、要望がある場合は所有園、所有者と相談をする。
- ⑥ 借りた教材・資料については責任を持って取り扱う。
- ⑦ 返却は期日を守る。

【検索代行希望者は】

- ① 総合教育センター窓口（幼児教育研究会議）に電話で検索依頼をする。
- ② 連絡を受けた情報をもとに、あとは、上記【利用者は】の手順に従って同じように行う。

【データベース登録資料所有園、所有者は】

- ① 利用者から提供依頼があったら、資料を確認する。
- ② 貸出台帳に記入の上貸出をする。
- ③ 貸出期間は一応2週間とし、要望があった場合は利用者の相談にのる。
- ④ 提供の方法については集配や各部会等いずれかの方法を利用者と相談をして決める。



* データベース利用にあたっての事前準備について

【研究会議において】

- ① データベース登録台帳（幼児教育データベース全登録資料が記載されている）を作り、各園に配布する。
- ② データベース教材・資料依頼台帳、貸出台帳を作り各園に配布する。
- ③ データベース登録資料だということがわかるようにするために右のような登録資料に貼るシールを作り各園に配布する。
- ④ 利用するにあたっての具体的なシステムを各園に伝える。
- ⑤ データベース利用について、わかりやすいパンフレットを作成し配布する。



【データベース登録資料所有園において】

- ① 配布された台帳をもとに登録教材・資料の整理をし、シールを貼りデータベース登録資料であることがわかるようにしておく。
- ② 登録資料については、提供依頼があった場合速やかに提供できるようにしておく。
- ③ 利用または、登録資料を提供する方法など具体的なシステムを理解しておく。

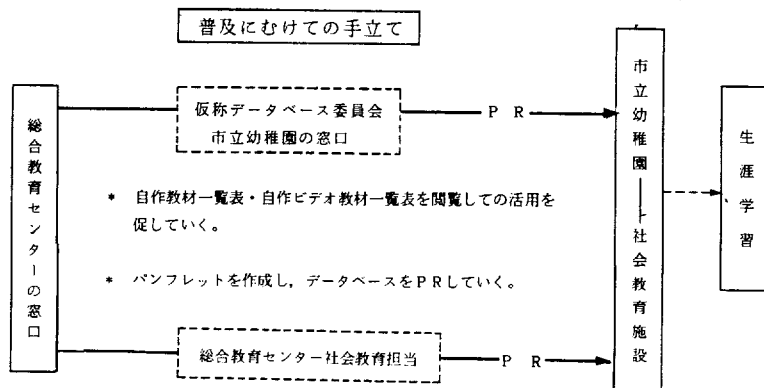
(2) 活用・普及にむけての具体的方策

幼児教育教材データベースの場合、まだまだ十分な関心がもたれているとはいえない状況にある。しかし、これからの情報化社会の進展に伴い、幼児教育もデータベースが大きな役割を果たしていくと思われる。そこで、データベースの活用を促し、その普及にむけて働きかけを続けていかなければならない。現在のところ市立幼稚園19園のみで情報の収集、提供が行われているが、将来的には市民館等における社会教育や幼児教育学級、一般市民の生涯教育等、幅広い活用が期待できると考えられる。

データベース普及に向けての方策として

- ① パンフレットにより、幼児教育教材データベースの収集内容・利用の方法等をわかり易くPRしていく。
- ② 自作ビデオ教材一覧表・自作教材一覧表・データベース登録台帳を各機関に配布することにより、機器を使っただけの検索だけではなく、一覧表、台帳を通してペーパーデータベースとしての利用も促していく。

市立幼稚園に向けては、市立幼稚園としてのデータベースにかかわる組織（仮称データベース委員会）が、社会教育施設に向けては、総合教育センター社会教育担当が働きかけを行っていく。



Ⅳ まとめと今後の課題

この二次研究においては、多様なニーズに応えられるよう、データベースの収集内容の充実を図るとともに、このデータベースが活用されるために、具体的にどのように利用したらよいか、そのシステムを整備し、普及することに主眼をおいた。しかし、教育現場の中にデータベースが根づいていくためには、まだ時間が必要だと思われる。今後、このデータベースが幼児教育の情報の基地となるためには、精選した価値ある情報の入力を継続していかなければならない。そのためには、利用者にデータベースに対する認識を深めてもらうことが前提になる。データベース普及に向け、更に手立てを講じ、幅広く利用されていくようになることが望まれる。

一次二次と4年にわたって幼児教育研究会議において進められたデータベース構築に関する研究は、おおよその形が整ったところで、今年度で終結させることになった。今後、このデータベースが運用されて行くためには、今まで幼児教育研究会議で行ってきたデータベースにかかわる情報・資料の収集、教材の開発、整理等様々な仕事は継続的に行わなければならない。そこで、市立幼稚園としてデータベースにかかわる組織を作り市立幼稚園側の窓口にするが必要になってくる。そして、それを受ける総合教育センターとしての窓口も明確にし、両者が連携していくことでデータベースが発展的に運用されていくと考えられる。このように円滑に機能していくことによりデータベースが社会教育施設の中で、また地域の生涯学習の中でも活用されていくことが可能になってくると思われる。今後の課題としては、下記のことがあげられる。

- ・データベースにかかわる市立幼稚園としての組織を作る。
- ・総合教育センターとしての窓口を明確にしていく。
- ・データベースを幅広く根づかせていくために、普及活動を継続していく。
- ・利用者の多様なニーズに応えられる収集内容であるか、特に教育要領改訂にともない、必要とされている情報について検討を重ね、情報収集を進めていく。

おわりに

この研究を進めるにあたり、第一研究室の先生方はじめ多くの先生方にご指導、ご助力をいただきました。ここに深く感謝申し上げます。また、市立幼稚園の先生方には、情報の提供、作業等多くのご協力をいただきました。心からお礼申し上げます。

・参考文献

- 宇佐美昇三 『学校のためのビデオブック』・ぎょうせい
国立教育研究所・全国教育所連盟『教育研究報告要録』 1988年
川崎市総合教育センター研究紀要「社会科教材データベースの開発」 1986年
川崎市総合教育センター研究紀要「幼児教育における教材データベースの構築」 1967年
データベース振興センター『情報化とデータベース』 1991年

・助言者

- 川崎市立子母口小学校校長 斎藤 勝 川崎市総合教育センター主任研究員 桜谷 昭夫
川崎市総合教育センター学習情報室主任 田中 幸治